

【緒言】認知症のスクリーニングテストとしては、改訂長谷川式簡易知能評価スケール, Mini-Mental State Examination がよく用いられているが、面接形式の検査であるため複数の対象者を同条件で検査することは困難であり、また軽度認知症を確認できるほどの精度を有しない。

認知症の予防や進行を遅らせる目的で、運動や生活習慣の改善などによる試みがされているが、認知症の自覚症状を感じないごく初期に実施することが効果的であると考えられる。

CogHealth(コグヘルス)はオーストラリア・メルボルン大学医学部の神経学、神経心理学の研究者グループによる研究成果を基に開発された、脳の認知機能を高精度で測定するツールである。海外では CogState 社(オーストラリア・メルボルン市)がサービスを提供し、日本国内においては(株)ヘルス・ソリューション(東京都港区)が独占ライセンスを有している。パーソナルコンピュータ上で5種類のトランプ・ゲームをすることにより、単純反応、選択反応、作動記憶、遅延再生、注意分散力について反応速度、正確性、一貫性を測定する。

CogHealth は、初回の測定値をベースライン(基準値)として設定し、その後の定期的な測定値をベースラインと比較して変化をチェックすることにより、認知機能の状態を確認することができる。認知症は発症の10年以上前から認知機能の低下が始まっていることが知られ、CogHealth の検査を定期的におこなうことにより、認知症の自覚症状を感じる前の早期発見が可能となる。

海外では大手製薬企業において、認知症治療薬、統合失調症などの中枢系医薬品の開発や、中枢系への副作用の評価などに利用されている。日本国内においても認知機能障害の早期発見のみならず、医薬品開発、サプリメントの評価などへの応用が期待される。

【結語】CogHealth は MCI 者から健常者までの認知機能を高精度に検出できるツールであり、認知症の早期発見に有用である。本講演では CogHealth の検査内容及び応用例について紹介する。